

ひまわり会NEWS

Vol.23

大阪千代田短期大学 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685 TEL 0721-52-4141 http://www.chiyoda.ac.jp/

ご挨拶

子どもが育つ 「森のようちえん」



大阪千代田短期大学 学長 石井 雅彦

卒業生（ひまわり会）の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年4月、学長に就任し、実習でお世話になっている子ども園・幼稚園・保育園を訪問しました。多くの園で、本学卒業生が保育者として勤務しておられ、わざわざ挨拶していただいた方もありました。『千代短の出身者は子どもに対する思いやりのある』『子どもに対して優しい』そんな声を多くの園長からいただき、本学に長く引き継がれている伝統の力を感しました。本学では、昨年9月3日（日）に冒険遊び場「ちよたんパーク」をオープンしました。冒険遊び場は、子ども自身が自然の土や植物、水などにふれ、自ら遊びをつくりだし、豊かに成長していく場です。全国各地に設置されていますが、大学構内に常設の冒険遊び場を設置する試みは、全国初となります。

現在、「ちよたんパーク」を活動の場として、附属幼稚園が「森のようちえん」を実施しています。「森のようちえん」は、子どもたちが自然とふれあい、仲間と思いきり遊ぶことを通して、豊かな感性や人間性を育み、自分自身で考え行動できる力の育成をめざした北歐生まれの教育活動です。その活動には、本学1回生が参画し子どもたちとともに活動し、ふれあいを深めています。次年度から幼児教育科に、4つのコースを設置します。「音楽保育コース」「アート保育コース」「心理・福祉・発達支援保育コース」に加えて、本学独自の「森のようちえん保育コース」を開設します。ゼミ活動を中心に、専門性を深めてほしいと思います。さて、本学が抱えている最も大きな課題は、学生募集です。本年度は、86名の新入生を迎えたものの、100名の定員に達していません。高校の卒業生が年々減少し、全国的に「短大離れ」「教育・保育離れ」がすすみ、入学定員の確保が難しい状況です。皆様のまわりに、保育者を志す高校生がおりましたら、下記あてにご連絡ください。よろしくお祈りいたします。

【連絡先】大阪千代田短期大学 TEL0721-52-4141
事務局長：赤土（しゃくど） 学長：石井

ひまわり会 会長 松原 栄子

(幼教16期生 旧姓：西川)

会員の皆さま、大阪千代田短期大学同窓会ひまわり会の活動にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

今年元日から、大阪にいても、ゆらゆらと体が揺さぶられるほどの地震がありました。石川県能登半島地方を震源とする最大震度7の大きな地震でした。多くの方が被災し、亡くられたり、不安な生活をよぎられたり、というニュースを見るたびに、私たちにできることは何か、と考えさせられます。

大阪千代田短期大学の学生数が厳しい状況にあります。母校存続を願う私たち同窓会は知恵をだしあい協力していきたいと思っています。短大には3つの寮がありました。今年春に若葉寮が、6月には青葉寮が同窓会を開かれました。同窓会に参加させてもらって、友だちは何年たってもいいものだなと思いました。期生同窓会、地域、学科、寮の同窓会の企画には、ひまわり会からの補助も活用していただけるようになっていましてご連絡ください。2024年10月19日土曜日、ちよたん小山田祭に合わせまして、ひまわり会の総会を予定しています。皆さんお誘いあわせて総会に参加していただけますようお願いいたします。まだまだ暑い日が続きますので、体調を崩されませんようにご自愛ください。

ミニ通信 (通信はがきよ4掲載)

幼教7期生 M・S
今年70歳を迎え、健康づくりにプールへ行っています。小学校の校長を退職して10年になります。千代短卒の後輩と出会うと嬉しいです。

幼教8期生 W・R
もうすぐ70歳になります。毎日デイサービスでぬり絵をしたり歌を歌ったり、指遊びをして楽しく過ごしています。

幼教5期生 H・T
ひまわり会ニュースありがとうございます。先生になるという夢を実現させることができ、20才から42年間小学校に勤務できたのは千代田短大のおかげでした。存続の危機に対して、理事長の強いお言葉、一人ひとりを大切にあらゆる可能性を排除せず頑張りぬくという記事に感動しました。今後母校の発展を祈っています。

幼教11期生 F・T
今年で67才になります。自営業でソース、福神漬を製造しています。ソース一筋70年です。身体をメンテナンスしながら頑張っています。

総コミ11期生 M・Y
短大を出て仕事をしはじめ、約5年働き、子どもができ今は母として毎日過ごしております。

幼教30期生 A・H
保育実習させていただいてありがとうございます。

幼教32期生 I・T
20年前に結婚して苗字が変わっております。卒業後から25年ずっと地元の保育士をしております。

幼教3期生 T・S
まもなく後期高齢者となりますが、毎日元気に楽しく暮らしております。

幼教8期生 S・M
小学校で40年勤務後、現在、非常勤講師をしております。

幼教15期生 M・M
かわいい子ども達の成長を喜びに日々の保育を頑張っています。

幼教36期生 T・R
子どもが高校生になり、自分が進路を考えた時の事を思い出し、メッセージを書きました。今は子育て支援に携わっています。4年前本田先生にお世話になりました。

幼教5期生 U・T
今は、信者誌所で若い人達や色々な人生の方々の再出発に少しずつでも力になれるように頑張っています。若い時の千代田での生活は私の心のエネルギーにもなっています。

幼教54期生 N・Y
現在、育休中です。3年間、3・4歳児の担任をし、子ども達の成長を感じられる仕事です。大変ですが、本当にやりがいのある仕事です。

吉田 博司先生を偲んで 同窓会事務局

今春3月15日、吉田 博司先生が享年89歳で永眠されました。樟美会、ひまわり会を創設して下さった先生で、ひまわり会名誉顧問もして頂きました。私たちがまだ、現職で同窓会に携われない時も繋いでくれたのが吉田先生でした。感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。合掌。



第7回 保育・教育・医療 フォーラム

自分の思いをこぼに …私の出会ったこどもたち

すぎやま かずまさ
くおはなし 杉山 和正 さん

11月10日(日) AM10:00~12:00 受付は9:30~入場無料

大阪暁光高校(総合館) “おはなし”は1階(AVホール)です



同窓会事務局より

今年度より、同窓会事務局を
させていただきますことになりました

大仲 明美
(高校28期生・幼教16期生 旧姓：中川)



卒業後、憧れの保育士になり、42年働いてきました。体力的にもしんどくなっていますが、千代田学園のために少しでも役に立つことがあればと思います。微力ですが、事務局をやらせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

※住所・姓名変更された方は、同封のハガキにて同窓会までお知らせください。問い合わせがふえています。お友達の変更も教えてください。ハガキには必ずご記載ください。
※3名以上でミニ同窓会を開かれたら同窓会へ通信をお願いします。
送ってくださった方に、粗品を進呈いたします。
※最近、同窓会を名乗り、個人情報を引き出そうとする事態が発生しています。本同窓会は、個人に対してそのような行為は一切行なっていません。
不審な問い合わせがあった場合、至急ご連絡ください。
※同窓会日より『ひまわり会 NEWS』の製作は就労継続支援B型事業所「なの花」さんに携わっていただいております。

連絡先 同窓会メール dousoukai@chiyoda.ac.jp
ホームページ <http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>
〒586-8577 大阪府河内長野市楠町西 1090 番地
千代田学園本部気付 同窓会事務局 行
Tel 0721-69-6120 Fax 0721-52-5782



「いいね」
してくださいね」

ひまわり会も
Facebook
に参加して
います。



小山田祭&ひまわり会総会

日時 10月19日(土) 受付9:00~

総会 <時間> 13:00~14:00

<場所> 本館 407号室

同窓会ひまわり受付で 記念品贈呈
(ファイル・ボールペン・バザーチケット)



交通アクセス

南海高野線「千代田」駅下車
本学への直行バスで約12分
(午前8時~10時台に出ています)
路線バス「⑩緑ヶ丘北町」行き
「東峯口」下車すぐ。

近鉄長野線・南海高野線
「河内長野」駅下車
本学への直行バスで約14分
(午前8時台に出ています)
路線バス「⑩⑪緑ヶ丘循環」行き
「東峯口」下車すぐ。





同窓会の皆様、今日は

理事長 高橋 保

いかがお過ごしでしょうか。本年1月1日能登半島を襲った地震の傷跡は未だ癒えず被災者の皆様の心中如何ばかりが察するに余りあります。改めて一日一日の積み重ねの尊さ有難さに思いを馳せ、疎かに日を過ごしてはならないと心新たにしています

それにしても建物の解体撤去申請 22000 戸に対し撤去を終えたのが900戸余り、4パーセントに留まっているのは政治の怠慢と一言では片付けられない問題を孕んでいるのではないのでしょうか。日々の暮らしの再建よりもひと時の夢に未来を託す危うさ。大阪万博には巨万の経費を費やし、お祭り行事に興じようとしています、会場はメタンガスが噴き出す命の危険と隣合わせだというのに、府内小中学生に学校ぐるみで参加させようなどとするのは以ての外。私は今からでも万博を中止して復興支援に全力を傾注すべきだと考えています。ましてや万博後には賭博場を備えた統合型リゾートセンターの開設を予定しており、万博はその露払いなのではと考えれば、その思いは一層募ります。

さて、閑話休題。些か怒りに身を任せてしまいました。本題に戻しましょう。本年度から3年間かけて高等学校の授業料が無償になりました。多くの人々の願いがようやく実現したのです。と、喜んだのも束の間。公立も私立もお金の心配なく行きたい学校に行くことができるはずでしたが、実際には公立も私立も特定の学校に志願者、入学者が集中し、一方で公立、私立いずれも約半数が定員割れとなってしまうました。その結果入学者数は公立、私立とも多くの

母校の先生

発展するちよたんの森、冒険遊び場「ちよたんパーク」 教授 島田 和秀

昨年から整備しているちよたんの森や冒険遊び場「ちよたんパーク」は、附属幼稚園の森のようちえんの活動で積極的に活用しており、年長さんから年少さんまで開設以来15回の森のようちえんの活動を行いました。多様な自然環境は、子どもたちの自主的で創造的な遊びを生み出し、仲間と協力を生み出し、様々な自然の中での発見を共有しています。そうした園児たちの活動に今年は1回生の学生がかかわって学生たちの学習の場としても発展しています。また、河内長野市内の幼稚園や保育園にも活用していただけるよう開放しており、これまでに5つの園が11回利用して自然の中での子どもたちの育ちに改めて注目が集まっています。

ちよたんの森や冒険遊び場は、附属幼稚園の関係者に短大オープンキャンパス開催日に合わせ開放し、グラウンドでデイキャンプをして家族で楽しんでもらう取り組みも行っています。大変好評で毎回50人から100人の参加者があります。これらの取り組みが附属幼稚園の魅力を一層広げ園児募集につながるようにしていきたいと考えています。

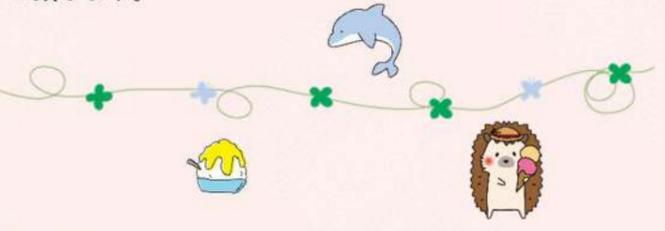
ちよたんの森や冒険遊び場の整備も毎週金曜に行っていて、短大後援会の阿波加さんや地域のボランティアの



高校が昨年比マイナスとなったのです。富める学校はますます富み、経営に苦慮している学校は厳しさが増すと言う顛末。競争原理、市場主義が教育の現場を席卷した歪み。受験生は弾き出されたのか、はたまた受験生から見限られたのか、全日制高校から広域通信制高校への流れが加速し始めた今、社会が単一の評価基準で学校を格付けしたつげがいびつな社会現象として学校教育崩壊前夜の様相を呈するに至ったのだとすると、如何にこのくびきから自由になるか、ここに活路を開く知恵が問われているのだと私は受け止めています。

厳しい状況の下ではありますが、短期大学では自然に恵まれた環境を生かし、山を開き遊歩道を調べ、学生の憩いの場に供するだけでなく、附属幼稚園をはじめ市内の幼稚園・保育園に広く門戸を開き、こども達が存分に自然に親しみ、ちょっとした冒険をも楽しめる場を提供しています。手足を伸ばし、五感を存分に働かせながら自然から「生きる」ことのすばらしさを会得しています。

そうした取り組みを力として、乾坤一擲。果たして答えになるか否か、未だ不透明ではありますが、本学園が大事にしようとしているのは、人と人を繋ぎ、結わえ、かけがえない関係性で結ばれた地域社会の構築に欠かせない土台づくり。保育や幼児教育また福祉や医療を網の目の如く張り巡らせ、その結節点に気が付けば卒業生がいると言う光景。新しい公共の構築。大阪千代田短期大学と大阪暁光高等学校は名もなき隣人として困った人にそっと手を差し伸べる人が育つ学園であれと願い、困難な時代に臨む心意気と致します。



方なども手伝っていただき、木登りコーナー、落ち葉のプール、斜面滑り、カブトムシ養殖場など次々と子どもたちに楽しんでもらうための整備を行っています。音楽の大浦先生は「ちよたんパーク森の楽器プロジェクト」を計画し、ちよたんの森に様々な楽器を作って設置し子どもたちが森の中で音楽を楽しむことのできるコーナーを作る計画を進めています。

来年度短大では、幼児教育科の中に「森のようちえん保育コース」を作ることを予定しており、そのコースでは学生のゼミ活動の中でちよたんの森や冒険遊び場「ちよたんパーク」を積極的に活用し、自然環境の中で豊かな保育を実践できる学生を育てていくことを計画しています。

ちよたんの森の整備活用は高野山大学と共同で行い、そのユニークな取り組みは文科省からも高く評価され、年間500万円の補助金が3年間つくことになりました。これからも引き続きより一層魅力的なちよたんの森、冒険遊び場「ちよたんパーク」をつくっていきたいと考えています。皆さんのボランティアでの協力をお願いします。また、一度ちよたんの森、冒険遊び場「ちよたんパーク」にあそびに来てください。



卒業生のみなさま お元気ですか

副学長 寄 ゆかり



ひまわり会のみなさん、こんにちは！今年度より副学長の任に就いております。本学卒業生として非常勤講師から勤務し、実習訪問等に行くと「元は保育現場にいらっしゃったのですか？」と言われ、その度に「いえいえ、ひたすら養成の立場で保育者を育てています」とお答えするほど、この仕事も長くなりました。

2023年度の卒業生も専門職への就職は90%以上となり、多くが現場で頑張ってくれています。現在も2回生は教育実習に奮闘中。実習訪問に行くと「先生、覚えていますか?」「大変な仕事やけど、子どもたちがかわいいねん」と

卒業生の今

ちよたん 小山田学舎を訪ねて…青葉寮4・5期生 同窓会

柴田 礼子(幼教5期生)

新型コロナが5類に移行したのを機に青葉寮同窓会を開催しました。1日目は大阪市内のホテルで懐かしい顔々に再会し、2日目は河内長野の母校を見学しました。参加者の感想です。

「久しぶりに会えて懐かしさでいっぱいでした。とても楽しい2日間でした」「千代田で過ごしたのはたったの2年間ですが、光り輝く2年間です」「懐かしい友が元気でいてくれる。それだけでも嬉しいですね。体力、気力、記憶力の低下を感じ落ち込みがちですが?皆さんの元気な顔、姿に、私も頑張ろうと力をもらいました。同窓生って良いですね」

最後に短大の校内を案内していただいた学長さんはじめ、同窓会役員の方々、お世話になりました。

私たちの頃とは違い、充実した設備を備えた短大がこれからも継続することを願いつつ母校をあとにしました。ありがとうございました。



あつという間の5時間でした

落合 一二美

(幼教16期生 旧姓:出口)

卒業してから43年、各々結婚披露宴に招待されて以来33年の月日が流れ、ずっと年賀状のやりとりはしていましたが、いつしか親や兄弟が亡くなり喪中の便りが来た事をきっかけに再会し、子育て、嫁姑、親の介護、私たち老後の終活の話題まで広がり、5時間があつという間のランチ会で、また会える事を信じてお開きとなりました。



共に学び合う喜び

大谷 真喜子(幼教16期生)

いつもひまわり通信を楽しみに拝読しています。この度、前学長であり、地元の附属小学校で上司であった松浦 善満先生からお話をいただきペンを取ることにしました。松浦先生には、大変お世話になりました。また、卒業生を繋いでくださっている「ひまわり会」会長の松原 栄子さんとは同期で、当時から懐の深い方だと感心していたことを記憶しています。私も母校のお役に立ちたいと思っていたところ会報原稿のご依頼があり、拙い文章ですが寄稿することにしました。

学生時代の思い出は尽きません。早朝の満員電車、急な坂道、走って予約したピアノ室、コンコーネ、体育の先生の見事な側転、おいしかった学食のうどん。温厚な学長先生や教職へと導いてくださった藤田 惇先生をはじめ、すべての先生・友・ことに感謝しています。

心理学で「アタッチメント」の重要性を学んだことや授業演習で仲間と指導案を作成したことは教職の基礎となり、青春そのものでした。

私は幼稚園・小学校二種免許を取得後、通信制大学3年生に編入し、卒業と同時に小学校一種免許を取得し、念願だった小学校教員になりました。赴任したどの学校も思い出深く、教職最後の4年間は校長としてコロナ禍も、教育委員会、保護者、地域の方々のご協力と可愛い子どもたち、共に目指す学校づくりに尽力してくれた教職員のおかげで心に残る教育活動を実践できました。本当に幸せな教員生活だったと感じています。

現在は地元教職大学院にて特任教員として主に学校から派遣されている現職教員である院生に「学校経営」「学校安全」「地域連携」等を指導し、共に学び合っています。

今は、社会の変化が激しく、少子化や教員不足、情報化、不登校など教育現場は課題が多い時代です。しかし、子どもたちの成長に関わり、共に学ぶことは素晴らしく、大きな喜びややりがいを味わうことができます。これからも母校から教育の原点である幼児教育に携わる方が多く誕生されること、ますますの母校の発展を願ってやみません。